『山川歴史 PRESS』
創刊のことば

橋場 弦
東京大学教授

諸外国にくらべても、日本では歴史に興味をもつ一般市民の層がかなり厚く、そのレベルも高いといわれます。これは戦後、高等学校できわめて質の高い歴史教育がおこなわれてきた成果であるといえるでしょう。わが国の歴史学は、学界の外に広がる大きなすそ野に支えられているのです。

グローバル化が急速に進むとともに世界の行く末がますます見えにくくなってきた現在、歴史学も変化の波にさらされ、日本史・東洋史・西洋史を問わず、新しい歴史の見方がつぎつぎに登場しています。高校教育の現場は、そうした新しい潮流に日々対応を迫られるでしょう。逆に専門の歴史学者も、高校の先生方から寄せられるさまざまな疑問に、真摯に向きあわねばなりません。教科書の執筆者であればなおさらです。

「みずから考える能力」の育成に力点をおくようになった今日の高校教育で、歴史を教えることが以前にもましてむずかしくなったことは、容易に推測されます。しかし、歴史をとおして自分の生きている世界のなりたちを理解することの喜びは、教える側・教わる側のどちらにとっても、つねに変わらぬものだと信じます。

教科書や教授資料だけでは十分に伝わらない学界の動向を平易に解きあかし、同時に学校教育での疑問や要望を専門の研究者に伝えることを目的として、山川出版社はこれまで『歴史と地理』を刊行してきました。このたび学習指導要領が改訂され、歴史教育の課程が大きく変わるのを機に、よそおいを新たにした『山川歴史PRESS』を創刊します。時代の要請に応じて誌面をあらため、第一線で活躍する研究者の解説をわかりやすく提供するとともに、教育の場から届けられた疑問に答え、また新しい授業の取り組みを紹介していきます。

本誌が現場と学界の饗宴の場として、歴史の授業をより魅力的にする一助となれば幸いです。

鈴木 淳
東京大学教授

歴史総合の新設を含む学習指導要領の改訂で、高校における歴史教育では、日本史と世界史の関連付けや対比、また歴史的なものの見方、考え方の指導などが従来以上に強調されています。これは歴史を学ぶ面白さや意味を生徒たちにより深く理解してもらう絶好の機会であると思います。これに対応して教科書も新たに作られました。

しかし、教科書の内容が新しくなっただけに、執筆者としては、その叙述の意図が高等学校の先生方や生徒たちに十分に伝わるのかどうか不安があり、説明を補う機会を得たいと考えています。また、生徒たちに考えさせる授業が求められるだけに、教科書がどのように使われるのか、また使ってみてどのような問題があるのか、知りたいと思っています。一方で、新たな科目編成や教員の世代交代の中で、教員の間で授業実践について情報を交換し、また適切な参考書を得る必要性も高まっています。そこで、『山川歴史PRESS』は従来の『歴史と地理』以上に、教科書の執筆者と利用者をつなぎ、また教員間の情報交換を助ける機能を高めています。

教科書は決して完全ではありません。本誌を通じて、その叙述を補い、背景を説明し、また授業で活用できる資料を提供していきます。さらに、高校での授業に活用する立場からの書籍紹介をおこないます。先生方からの教科書の内容についての、あるいは書かれていないが指導の上で重要な事柄についての質問も歓迎します。教科書執筆者に限らない研究者の力を結集してお答えします。また、授業実践の「教室レポート」もぜひお寄せください。

本誌の活用によって、生徒たちが歴史の学習からより多くのことを学び、また教科書の内容が進歩していくことを祈念しています。